

20. 医療経営・管理学専攻

(1) 医療経営・管理学専攻の教育目的と特徴	20-2
(2) 「教育の水準」の分析	20-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	20-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	20-11
【参考】データ分析集 指標一覧	20-13

(1) 医療経営・管理学専攻の教育目的と特徴

1. 教育目的

医療経営・管理学専攻は、専門分化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し、人生を過ごせるよう、統合・調整・組織化できる高度な専門職業人を育成することを、教育の目的としている。その目的のもとに展開する本課程を修了し、下記の学修目標を達成した者に、修士（医療経営・管理学修士（専門職））を授与する。

2. 教育戦略

医療系、非医療系分野の新卒者、社会人、留学生など多様な人材を受け入れる。現代の医学、医療分野が求める新たな高度専門職業人の養成に特化した教育を行う。医療・保健に関する幅広い問題について医学及び社会・人文諸科学的な観点から総合的な教育活動を行う。これらは、本学府の中期目標である「高度で専門的な医学と生命科学の知識・技術を有し、全人的人間性を備えた医療人を育成する」、「国内外の医療機関、医療行政機関の知のパートナーとして、アジアも含めた世界の医学・医療の進歩に貢献する」、「地域医療に関する教育の充実と人材の育成」を踏まえた教育戦略となっている。

3. 教育方針

本専攻の教育を通じて、現代の医学が求める新しい分野の人材、すなわち 21 世紀の医療人として高度の能力を有し、体系的な高度医療を支援する高度専門職業人を育成する。医療政策、経営、管理、コミュニケーションをコアとして広域にわたる知識を習得し、所定の単位を修得した上で、最終成果物審査における合格を条件とする基本方針のもとに、学位を授与する。修了生は、医療機関、行政、NPO、シンクタンク、企業、大学、研究所での幅広い活躍が期待される。これらは、本学府の目標に沿ったものである。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7320-i1-01～03）
- ・ 公表された学位授与方針（2020年3月改定）（別添資料 7320-i1-04）
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7320-i2-01～03）
- ・ 公表された教育課程方針（2020年3月改定）（別添資料 7320-i2-04）
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7320-i3-01～06）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 7320-i3-07、09～10）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7320-i3-11～15）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育課程は、疫学・生物統計学等を基盤に、医療政策・医療経営・医療管理・医療コミュニケーション分野の教育を加えて構成し、医療・保険に関する幅広い問題について特色ある総合的な教育を行なうためのカリキュラムを編成している。（（再掲）別添資料 7320-i3-02）[3.1]

九州大学医療経営・管理学専攻 教育活動の状況

- 授業計画は、1年次は基礎的な知識・能力の習得が可能な科目、2年次では追加的な科目の履修を行えるように編成され、展開的、実践的な応用能力を段階的に涵養できる科目配置となっている。（（再掲）別添資料 7320-i3-03） [3.1]
- 社会ニーズに即して、公衆衛生系専門職に必要な能力を養成する教育内容を、計画的かつ適切な履修できるよう、シラバスに2年間の履修科目のモデルを複数提示している。（（再掲）別添資料 7320-i3-04） [3.2]
- 社会人学生が履修しやすいように全ての必修専門科目を同一曜日に配置し、医療経営・管理学を包括的に学びながら、主として夜間に行われる演習（発展的内容、実践的内容、事例研究等）を通じて高度専門職業人として必要な実践的能力の涵養を図った学位プログラムとなっている。 [3.2]
- 学生による授業評価アンケート、修了生授業アンケート、教育課程連携協議会等を利用し、学生、上司、第三者から社会課題や人材需要における意見を聴取し、各教員は課題を明らかにするとともに、授業内容の改善を図っている。
（別添資料 7320-i3-08） [3.2]
- 「医療学基礎科目群」（医学・医療に関する基礎知識）、「共通基礎科目群」（各分野において履修する上での基礎知識）、「必修専門科目」（医療経営・管理の専門職を養成するために不可欠な知識）、「選択専門科目群」（医療経営・管理に必要な幅広い領域をカバーする知識）を設置することで学際的教育を推進している。「選択専門科目群」の各授業科目は、学術動向に即して医療経営・管理に必要な実践的内容、事例研究、発展的内容を含んだ教育となっている。 [3.3]
- 本専攻を含む本学の4つの専門職大学院が連携して「専門職大学院コンソーシアム」を設立し、「相互履修科目」を設けている。（別添資料 7320-i3-15） [3.5]
- 高度汎用的な知識・技術・態度を涵養する大学院基幹教育科目が開かれている。
（別添資料 7320-i3-16） [3.5]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7320-i4-01～04）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 7320-i4-05）
- ・ 専門職大学院に係るCAP制に関する規定（別添資料 7320-i4-06）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 なし）
理由：該当ないため
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 なし）

理由：該当なしのため

- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 各授業科目において、グループ学習、ケース教育、フィールド調査等の教育手法や授業形態を積極的に採用している。さらに裁判所の民事訴訟の法廷での口頭弁論見学、SPD（Supply Processing & Distribution；院内物流）の流通施設見学、病院での手術見学、病院経営の実践現場など、現場に出向いての教育の機会を積極的に設けている。専門職コンソーシアムにおける相互履修やQREC科目（アントレプレナーシップ関連教育科目）の受講を通じて、多職種連携による教育を充実させている。（（再掲）別添資料 7320-i3-15） [4.1]
- 保健医療福祉における各分野の専門職である学生が、討論、ワークショップ、ロールプレイに参加することでIPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）の効果は上がり、アクティブラーナーとして積極的な学習に取り組めるようになってきている。インターンシップの制度も採用しており、本専攻での教育が修了生のキャリアアップにつながる機会を提供している。（別添資料別添資料 7320-i4-07） [4.2]
- 講義の質の向上を目的として、学内共通のM2B（みつば）学習支援システム（Moodle）を活用し教育効果の向上を目指している。 [4.3]
- 講義以外に特に2年次は演習を重視している。演習及び最終成果物（研究論文や調査等）作成は全学生の必修科目であり、指導教員のもとで、具体的な研究課題に取り組ませている。必修専門科目である「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」はすべて医療経営・管理学講座の専任教員が務め、指導教員として最終成果物の作成の指導にあたっている。 [4.4]
- 演習指導にあたっては、教員は学生の希望するテーマに沿いつつ理論と実務の統合を念頭に置いている。社会人が現場の実務を踏まえ、現場での問題を明確にして実現可能な対応策を提言できるような、問題解決型の研究・調査を最終成果物とすることができるように配慮している。研究倫理に関する事項は適宜講義に取り入れるとともに、演習の中で研究倫理教育も行っている。 [4.5]
- 演習や最終成果物作成の過程において医療機関や自治体などの職場との連携が可能な場合には、連携を行うことで理論と実務の架橋を図った教育に対応している。 [4.6]
- 授業アンケートにおいては、学生自身が学習成果について自己評価を行い、その結果は各教員が学習指導に活かしている。（（再掲）別添資料 7320-i3-8） [4.7]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7320-i5-01）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7320-i5-03～04）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7320-i5-05）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7320-i5-06～09）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生生活全般については、入学時に医学系学府としてガイダンスを行うとともに、本専攻独自のオリエンテーションを行っている。また、2年次学生による履修、学習についての説明と相談機会を設けている。シラバスには各授業の概要、授業のすすめ方、教材、試験・成績評価について記載しており、シラバス等を利用して事前の学習準備を指示するとともに、レポート提出や小テストの実施により、学生の理解度を確認しながら授業を進めている。（別添資料 7320-i5-02） [5.1]
- 入学時に教員1名に対して4～5名の学生を割り当て、学生全員の担任を定め、履修指導・学習相談を行っている。担任はそれぞれの学生個別に履修指導、学習相談に継続的に応じ、学生個人の心身の健康、修学に関わる問題、奨学金も含めた経済的問題等の種々の問題に対応している。また、各授業に関する相談については、オフィスアワーや修学相談の項目をシラバスに記載し、授業担当教員とのコミュニケーションの機会を確保している。さらに、1年次前期に演習指導教員を決定し、学生の学修歴や実務経験の有無等多様性を踏まえ、ニーズに応じた適切な助言を行っている。履修に問題を抱えた学生に対しては、担任および演習指導教員から具体的なアドバイスとサポートが得られる体制を整えている。担任、演習指導教員は必要に応じて、教務委員会、総務委員会、講座会議等において情報の共有と協議を行い、組織的な履修指導を行っている。 [5.1]
- 講義形式の必修科目では収容定員50～100人の教室や設備を利用し、ケースメソッドによる授業や外部講師を交えたディスカッション重視の授業、演習などの場合は、収容定員30人程度の教室や教員室などを利用し、それぞれ適切な人数、空間、設備を考慮している。 [5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 7320-i6-01～04）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7320-i6-05）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（（再掲）別添資料 7320-i6-01）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 必修科目・選択科目の成績評価、単位認定の基準及び方法はシラバスに明示するとともに、シラバスの配布やオリエンテーション等により学生に周知されている。必修科目・選択科目の成績については、各科目担当教員が評価した後、「医療経営・管理学講座会議」で検討し、その結果を「医療経営・管理学専攻会議」に報告することで、公正かつ厳格に行っている。[6.1]
- 専門分野の知識、技能、汎用的技能については、各科目の中で授業態度として評価の対象としている。また、各科目の成績評価の方法については、シラバスに付記し、学生に周知したうえで、適宜、筆記試験並びにレポートの提出等も行っている。[6.1]
- 演習として最終成果物の提出を義務付けている。内容は、研究論文とともに医療経営・管理現場に役に立つための調査、ケース・スタディ、ケースメソッド、教材作成である。評価は新規性、貢献度、完成度、発表、総合評価の側面に関して評価を行い点数化して行う。[6.1]
- 「医療経営・管理学専攻成績評価規則」により、本専攻の授業科目について受けた成績評価につき不服がある場合には、調査請求を行うことができるようになっている。問い合わせ等があった場合には、「学務委員会」、「医療経営・管理学講座会議」等で検討を行い、成績評価及び単位認定の公正性・厳格性を担保している。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7320-i7-01～05）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
（（再掲）別添資料 7320-i6-02～04、7320-i7-06～09）

九州大学医療経営・管理学専攻 教育活動の状況

- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（（再掲）別添資料 7320-i6-02～04、7320-i7-06～09）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医系学生、非医系学生（医学、歯学、薬学、保健学、看護学等学部以外の学部又は学科の卒業生）ともに、2年以上在学し、指定の授業科目から30単位以上を修得し、その他本専攻の定める教育課程を修了することを修了要件としている。具体的には、非医系学生は、「医療学基礎科目群」4単位、「共通基礎科目群」6単位、「必修専門科目群」18単位、「選択専門科目群」の履修を含めて2年間で30単位以上の履修を修了要件としている。また、医系学生は、「共通基礎科目群」6単位、「必修専門科目群」18単位、「選択専門科目群」（履修モデルを参照し選択する科目）の履修を含めて2年間で30単位以上の履修を修了要件としている。[7.1]
- 演習の単位認定に最終成果物の作成があり、完成させることが学位授与の要件となっている。最終成果物については、中間発表会、最終発表会において講座教員全員によるアドバイスを受けたのち、最終発表会において講座教員全員の意見を参考に指導教員が評価を担当し、評価結果は学生に通知される。専門分野の知識、技能、汎用的技能については、各科目の中で授業態度として評価の対象としており、単位認定が行われる。[7.1]
- 各授業科目の成績評価は、担当教員が評価した後、「講座教員会議」で検討し、その結果を「専攻運営会議」に報告している。演習については、専任教員全員による4段階評価を総合点として評価し、最終成果物発表会終了後「講座教員会議」で承認ののち「専攻運営会議」に報告しており、公正・厳格に修了認定が行われている。[7.1]
- 学位授与に関わる審査は、修了要件に即して、「教務委員会」、「医療経営・管理学専攻会議」、「学府教授会」において承認を得るという手続きにより、厳格かつ公正に行われている。[7.1]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7320-i8-01）
- ・ 学生受入方針が確認できる資料（2020年3月）（別添資料 7320-i8-02～04）
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7320-i8-05）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 高度専門職業人の養成という本専攻の目的を踏まえて、研究計画のほか、課程修了後の現場における貢献度・創造性・実現可能性の資質と能力を有する者を選抜の対象としている。受験者層の特徴を考慮して、多様な人材を確保するため、入学者選抜試験を前・後期に分けて実施し、前期の試験科目は英語、小論文、面接、後期は学力試験（専門基礎知識 英文解釈問題を含む）、小論文、面接としている。これらの試験を通して、医療を改善する情熱や具体的な問題意識に加えて、論理的な思考力を持っている者を選抜している。これらは、募集要項、ホームページに掲載している。留学生や社会人に対して特別選抜の制度を適用することにより、医療分野における多様な人材の確保に繋げている。入学者選抜では、特に社会人が合格者の8割以上を占めており、多岐にわたる人材を選抜している。（別添資料 7320-i8-06） [8.1]
- 学生受け入れ方針は、年に2回オープンスクールを実施し、専攻の紹介と模擬講義を行い、応募希望者に対して入試及び修学に関する質問に答えている。また、公開講座を年に1回開催し、社会に発信している。参加者からの質問に在学生在が答える機会も設けている。その結果、さまざまな分野から学生を受け入れることができおり、医系、非医系の新卒者、社会人、留学生などの多様な人材が確保できている。（別添資料 7320-i8-07～08） [8.1]
- 本専攻の「入試委員会」が入試業務を担当し、選抜基準・選抜方法等について専攻の教員で協議を行い決定している。年度毎に、入学試験の実施内容を、志願者数、受験科目、試験成績、合格者数等の観点から検討し、その結果を「講座会議」と「専攻会議」の場で報告、検討している。その検討結果を踏まえ、本学府の中期目標を達成すべく入学試験の科目、内容について変更を加えている。 [8.1]
- 本専攻の入学定員は20名、収容定員は40名である。本専攻における入学定員と実入学者とのバランスは、過去4年の入学者選抜の状況から判断して適正であ

九州大学医療経営・管理学専攻 教育活動の状況

と思われる。学生定員並びに現員は、全体として定員を充足している。オープンスクール、公開講座、ホームページなどでの広報に力を入れ、志願者の数を増やすとともに、適正な入学者確保に努めている。[8.1]

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 7320-iD-01～02、（再掲）7320-i3-03～05, 7320-i4-05）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 社会人学生が無理なく履修できるよう、また効率的な自己学習の時間が確保できるように、特定の曜日に集中的に授業科目を配置している。特に、必修科目の講義は同一曜日に集中して開講している。また、必修科目以外の講義についても、集中講義を開講し学生の履修に配慮した設定となっている。さらに、「演習」についても主として夜間に行うとともに、学生の勤務の都合に応じた個別指導を行うなど、社会人学生が授業と仕事を両立できるように個別の状況に応じて行っている。社会人学生に対しては、「フルタイムの職を有する者等で標準年限（2年間）を超えて3年間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを入学手続き時に申し出た者は、その計画的な履修を認めることがある」とする「3年履修制度」を設けている。[D.1]
- 本専攻の社会人学生には、平成27年度入学者より「専門実践教育訓練給付金」が適用され、受講費用の4割が厚生労働省より支給されている。また、入学のために退職した学生には「教育訓練支援給付金」が援助されている。対象者は、通算して2年以上の雇用保険の被保険者期間（2回目以降に受給する場合は通算して10年以上の被保険者期間）を有し、2年間で修了した者である。令和元年度修了者では、同給付金8名、支援金2名が受給している。[D.1]
- 授業時間外の学習時間を確保し無理なく履修できるよう、1学期間の履修単位の上限を設定することで十分な自己学習の時間確保を可能にしている。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7320-ii1-01）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7320-ii1-02）
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7320-ii1-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 単位取得による修了率には、長期履修者も含まれており、ほぼ全員が標準修業年限内に修了している。社会人学生に配慮した対応を行うことで、就業状況に左右されることなく順調に修了できていると考えられる。修了生の就職先における上司に対して行ったアンケートにおいても、おおむね良好の結果であった。[1.1]
- 専門職大学院修士課程在学中あるいは修了後に専攻と共同で行った学生が筆頭著者の論文数は、2016年度10件、2017年度9件、2018年度14件となっており、学会発表は2016年度25件、2017年度22件、2018年度20件行い、そのうち各学会より2016年度3件、2017年度5件受賞している。
(別添資料 7320-ii1-03) [1.1]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了生の進路状況は、9割以上が想定された分野（医療機関、大学、行政、コンサルタント、企業、大学）に就職している。大学教員、研究機関、大学理事、医療法人の理事長、病院長、病院部長、医院院長、事務長等の医療機関経営、病院の看護部長等の看護師の管理部門の代表、コンサル、公的機関において活躍している。高度専門職業人の育成という教育目的に沿った人材的貢献を果たしている。（別添資料 7320-ii2-01） [2.1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7320-iiB-01）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 課程を修了した修了生に対して、定期的にアンケート調査を実施している。多くの修了生は、現在の教育方法や講義や演習の内容には肯定的である。それらの結果は、「講座会議」及び「専攻会議」で報告し、教育課程、教育内容の改善に役立てている。それらの結果により演習内容、講義内容の改善を行っている。

[B.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7320-iiC-01）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了生の所属先の上司からのアンケートの調査においては、高度専門職業人として求められる知識、技術、能力、協調性などの項目で、概ね高い評価を得ることができている。また、就職先から「採用のメリットがある」との回答を得ることができている。修了生は医療関係の就職先でも即戦力として期待できると評価されており、医療経営・管理分野のリーダーとして活躍するとともに、高度専門職業人として医療を通じて社会に貢献している。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。